

加賀市立錦城中学校

学級数：11学級 生徒数：341人

【テーマ】

がんについての正しい知識を学び、自分や他者の未来のためにできることについて考える。

1 はじめに

今回の事業を受け、がんについて学習する中で「がん大国日本」と呼ばれる背景には“高齢化”はもちろんだが「がん検診の受診率の低さ」が大きく関係していると感じた。本校では、第2学年時に「健康な生活と疾病の予防」の授業でがんについての学習を行っている。だが、生徒たちは「がん」をどこか他人事として軽く受け取っているような印象があった。その様子は、事前に行ったアンケートからもうかがえ、「自分はがんにかからないと思う」という生徒が学級の2割近くいるという現状がわかった。

以上のことから、がんについての正しい知識を学ぶことはもちろんだが、“自分や他者の未来のためにできること”について「自分事」として考えられることが必須であると考えた。

2 実践

(1) 自分事として、早期発見の大切さに気付く

① がんにかかる確率の高さを実感する

男子3人グループ、女子2人グループをつくっておき、男子2/3、女子2/1で当たるくじを3回引かせる。くじを引く活動を通して、生徒たちは“何かしらのがんにかかる確率の高さ”を実感し驚く様子が見られた。また、男子のグループに外部講師の先生も入っていただき関わりを持っていただいた。

② 早期発見の大切さに気付く

乳がんのステージごとの10年後の生存率を表す表を見て早期発見の大切さに気付くことができた。

女性の乳がん

NHK

ステージ1	94.1%
ステージ2	86.6%
ステージ3	62.7%
ステージ4	16.9%
全体	82.9%

ここでがん教育プログラム（モジュール5）“検診の意味”に含まれる「早期発見できれば9割の人が治る」というグラフを見せ、早期発見の大切さをより感じることできていた。

Q 検診でがんを早期発見するとどれくらいの人が治るのだろうか



検診対象がんの罹患別5年相対生存率（2010-2011診断例）
（「がん診療連携拠点病院内がん登録生存率集計（2010-2011診断例）」を基に作成）

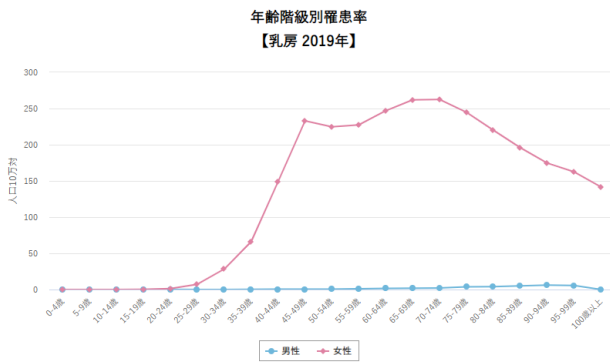
3

また、この場で外部講師の先生に「早期がんと進行がんとでは治療にかかる費用が10倍違う」という情報を教えてもらい更なる早期発見・早期治療の大切さについて考えさせることができた。

③ がん検診のプランを立てる

事前に考えておいた各自のライフプランの表にがん検診を受診する年にチェックを入れてく。その際に、がんの種類ごとの「年齢別罹患率」のグラフや「がん検診の種類」についての資料を参考にしながら活動を行った。生徒から外部講師の先生に「2種類の胃がん

「検診の違い」について質問があり、説明・助言がされていた。



がん検診の種類

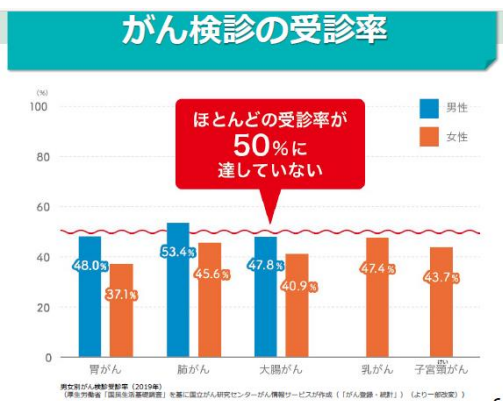
胃がん検診		大腸がん検診
胃部X線検査 対象者: 50歳以上の男女 ※50以上の男女 ※40歳以上に對し実施可 受診間隔: 2年に1回 ※当分の間、年1回実施可	胃内視鏡検査 対象者: 50歳以上の男女 受診間隔: 2年に1回	対象者: 40歳以上の女性 ※40-49歳以下を 特に推奨 受診間隔: 年に1回
肺がん検診		子宮頸がん検診
対象者: 40歳以上の男女 ※40-49歳以下を 特に推奨 受診間隔: 年に1回 ※必要に応じて 増設施設設置の要あり	乳がん検診 対象者: 40歳以上の男女 ※40-49歳以下を 特に推奨 受診間隔: 2年に1回	対象者: 20歳以上の女性 ※20-49歳以下を 特に推奨 受診間隔: 2年に1回

出典：厚生労働省【がん対策情報】 厚生労働省【がん予防重点政策教育及びがん検診実施のための指針】

活動後半には、がん検診をどのように自身のライフプランに組み込んだかや、その意図についても共有・発表の場面を設け、生徒それぞれが自身や他者の命の大切さについて考え、未来に向け思いを共有した。

④がん検診の受診率についての現状を知る

がん教育プログラム（モジュール5）“検診の意味”に含まれる「がん検診受診率」のグラフを確認し、がん大国日本の課題に気付くことができた。



⑤がんの治療について学習する

外部講師の先生からがんの治療法や治療に

かかる時間や費用の大きさについても学ぶことができた。

また、がん治療も時代とともに進化し、がんに対抗する免疫を高める薬も近年では研究されているなどの話を聞くことができた。



⑥振り返りを行う

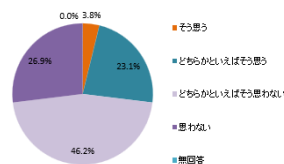
(生徒の感想)

- ・がんを早期に発見することが大切なことがわかった。
- ・何かしらのがんにかかる確率の高さに驚いた。
- ・対象年齢になったらがん検診をしっかりと受診したい。
- ・がんの治療法には手術と放射線治療と抗がん剤治療の3つがあるとわかった。
- ・限りある人生の中でお金や時間を大切にしたい。
- ・免疫を高められるような規則正しい生活習慣を大切にしていきたい。
- ・自分だけでなく家族の健康も気にかけていきたい。

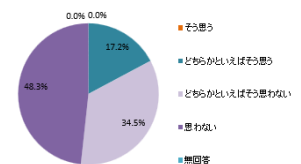
3 生徒アンケートの結果

今回の授業前と後とで「自分はがんにならないと思う」という生徒の割合が以下のように変わった。

<実施前>

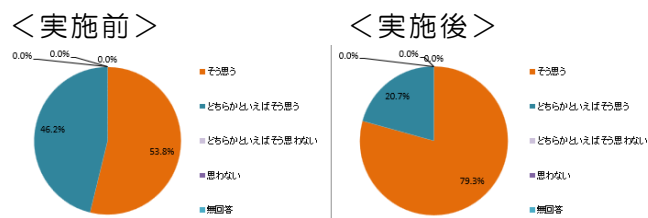


<実施後>

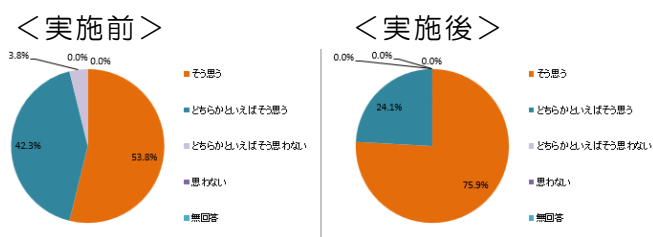


「がんにかからないと思う」と答えた生徒の割合が減ったことで、誰もががんにかかる可能性があることが生徒に伝わったのだと感じた。

また、授業の中には「早期発見の大切」や「がん検診を受診することの重要性」についても考える場面があったことで「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」と答えた生徒の割合が以下のように増えた。



そして、本事業をするにあたってのテーマにも掲げた「自分や他者の未来のためにできること」について本時の授業でも自分だけでなく「大切な人（家族やパートナー等）を守るために」という視点も持ち取り組むことができた。以下は「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」と考える生徒の割合の変化を表したグラフである。



この結果から授業を通してそれぞれのライフプランを考える中で、未来に向けて前向きな取り組みができたと感じている。

4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

今回の事業を通じて、がんへの正しい理解を深めることができたと感じた。それは、一概に生徒だけの話でなく、授業者はもちろん授業を参観した先生方も同様だと思われる。

授業始めに「何かしらのがんにかかる確率」についてくじ引きを用いてその確率の高さを体感したことで、生徒一人一人が“自分事”としてがんに向き合う姿勢をつくることができ、とても有効な活動だったと思う。また、早期発見についても、ステージごとの10年後の生存率の表やがんの種類ごとの年齢階級別罹

患率を表すグラフなどのデータを用い、科学的根拠から生徒たちがその大切さや必要性に気付くことができていた。また、それを学んだ上で自身のライフプランの中で「がん検診」についてもプランを立て、今だけでなく将来の自分の健康や、大切な人の健康に気を配ることの重要性についても考えることができていた。外部講師の先生からも、以上の内容に合わせた場面ごとの解説や、治療法について話す中で早期がんと進行がんとで治療にかかる時間や費用の違いについても解説をしていただいたことで生徒たちの中での「自分の人生においてのがんへの意識」が高まるのを感じた。

そして、今回の授業に合わせ本校1階ホールには司書教諭と協力しがんに関する本を並べたり、加賀市の健康課からいただいたがんに関する資料を掲示したりと「がんコーナー」を設け、授業外でも学ぶことのできる環境を整えた。



◆◆課題◆◆

今回の授業を通し、生徒たちは早期発見の大切さやがん検診の重要性を理解する中で、「がんへの意識」を高めることができた。その一方で、“どのような自身の身体や体調の変化ががんに関連しているか”なども理解しておくことが今後健康を守るために必要な知識だと感じた。

また、今回の事業をきっかけに今後も学び続けることや伝え続けること、そして外部と協力し生徒たちを育てていくことの姿勢を大切にしていくことが求められると感じた。今回いただいたつながりを大切に今後もより現実に近い情報を生徒たちに届けていきたい。